



「治安維持法の犠牲者と語り合うつどい」に参加された犠牲者の皆さん



407

編集発行人 針谷宏一  
治安維持法犠牲者  
国家賠償要求同盟

〒113-0034 東京都  
文京区湯島2-4-4  
平和と労働センター・全労連会館

電話 03(5842)6461  
FAX 03(5842)6462  
http://www17.plala.or.jp/chian  
定価 50円

# 3.15大弾圧80周年・同盟創立40周年 再び戦争と暗黒政治を許さぬ政治を

## 主 な 記 事

「治安維持法犠牲者と体験を語り合うつどい」	2
創立40周年記念「特別募金」の訴え	4
時の焦点／後期高齢者の怒り	5
抵抗の群像／反戦兵士宮内謙吉	6
同盟歌壇／碓田のぼる選	7
書棚／『抵抗の群像』を読んで…山田善一郎	7
顕彰碑探訪／尹奉吉 ユンボンギル	8

わが同盟が結成されたのは一九六八年三月十五日、こと  
して四〇周年を迎えました。

また八〇年前のこの日は治安維持法による三・一五大弾  
圧の日です。治安維持法は一九一五年から廃止される敗戦  
後まで二〇年間、国は戦争に反対し、民主主義を求め、抵  
抗したすべての人々を「国体」に反するとして逮捕・検束  
し、その名誉と人権を蹂躪しました。戦後三二年へた今日、  
四月の横浜事件最高裁の「免訴」判決にもみるように、国  
は治安維持法犠牲者にたいする過去の過ちを認めず、自ら  
の「名誉回復」を放棄する国際的にも恥すべき歴史認識に  
立っています。

同盟は結成以来、「政府は治安維持法が悪法であったこ  
とを認め」「弾圧犠牲者の全容を調査し」「謝罪と賠償を  
求める」国会請願署名を粘り強く取り組んできました。

今日、憲法改悪に反対する声は全国にひびきわたり、国  
民が政治を動かすという新しい展望が開けつつあります。  
総選挙も間近の政局。憲法九条を守る国づくりへ、国と地  
方の政治に同盟の要求を支持する力を大きく躍進させよう  
ではありませんか。

# 戦争と暗黒政治許さぬ

## 同盟創立40周年記念の集い 治維法犠牲者が体験語る



同盟中央本部は四月十三日、「治安維持法犠牲者と体験を語り合うつどい」を、東京・平和と労働センターで開き、全国から約一三〇人が参加しました。

今年は、三・一五大弾圧八〇周年・同盟創立四〇周年にあたることから「ふたたび戦争と暗黒政治を許さない」決意を新たにしようと呼びかけられたものです。

神戸照会長代行が開会あいさつ。「政府は侵略戦争反対、民主主義と自由を求める人々たちを

月、共産青年同盟加盟が発覚して、卒業目前に退学処分。二六年9・11事件で治安維持法違反により懲役二年、執行猶予五年。

今日まで節を曲げず、挫折しないで来られたのは何か。資本主義の矛盾、日本の現状を学び、科学的社会主義の信念を養ったこと。行動のなかで培われた同志愛は、人間と人間とのむすびつきで一番尊いもの。家族との結びつき、そして家庭が私を支えてくれた。

迫害し、虐殺八〇人、拷問による獄死一六〇〇人、逮捕は数十万人にのぼるが、犠牲者・遺族は放置されている」とし、同盟活動の強化を訴えました。

画家の永井潔、大阪市立大学名誉教授の林直道、宮城・大川芳夫、愛知・荒川次郎、大阪・西川治郎、千葉・山下懋、北海道・菱谷良一、松本五郎、神奈川県・水谷安子、東京・市吉澄枝の各氏が、戦前・戦中の特高による過酷な弾圧とのたたかひの体験を語り、命あるかぎり平和のためにたたかう熱い決意をのべました。

### 労組結成のヒラまきで逮捕

愛知・荒川次郎さん(95)



名古屋のノリツ自転車製作所に入社。三三年一九歳の時、

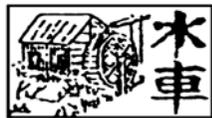
職場に労組をつくらうとヒラを二回工場にまき、科学的社会主義の学習をしたことが治安維持法違反で二〇〇人の仲間といっしょに逮捕。熱田・千種・昭和の三警察を



宮城・大川芳夫さん(96)

旧制高(現・東北大学)の二年生の時(一九三一年九月)

「満州事件」が起きた。その時、社会科学研究会に加入し、社会変革の理想に燃えて活動。三三年三



日中平和条約30周年記念の「沙飛(さひ)」がとらえた日中戦争を参観。日本帝国主義の侵略戦争の時代を八路軍従軍カメラマンとしてとらえた貴重な写真展です。困難を克服して人民とともに侵略軍と敢然とたたかう八路军。置きざりにされた日本少女 柊(かこい)美穂子さん と情理を尽くした書簡と共に日本軍へ届けた聶宋臻(じょうせいしん)將軍との四〇年後の劇的な再会。臨終の魯迅の写真など、驚きと涙なしには見られぬものでした。「生きて虜囚の……」とたたきこまれた日本兵捕虜の複雑な表情 やがて真実を悟り、明るい表情で反戦の戦列へ。日本の起した不正義の戦争は、たとえ対米英戦闘がなくても敗北の運命をたどったであろうと痛感させられました。六〇余年前、空腹と連日の空襲の疲れをこらえて通った思い出の工場近くのJR大崎駅前の会場(おー)美術館を、深い感慨を抱きながら後にしたのでした。(巽)

タライ回して二〇か月留置(一・二八事件)。二〇歳で召集を受け、身柄は憲兵隊に移され中支方面へ派遣。終戦一カ月前に満洲・関東軍へ。終戦と同時に、ソ連軍捕虜としてアングレンで重労働。三年間抑留生活。二人で反軍・民主化闘争を組織してたたかつた。

### 転向者と交渉したら懲役二年

大阪・西川治郎さん(99)



日本戦闘的無  
神論者同盟「  
戦無」は、蔵  
原惟人の指導で

三二年一月に結成。

三二年から常任に。三四年二月末、夫婦ともに逮捕。タライ回しの末十二月起訴、市ヶ谷に収監。三五年五月仮出所。同年治安維持法違反で懲役二年執行猶予三年の判決。三八年九月大阪・新町署に逮捕。翌年四月まで拘留、起訴。理由は執行猶予中に転向者達と交渉があつたこと。予審判事は「こんな事件」と仮出所を許可。これに検察が激怒し、治安維持法違反で実刑二年の判決。四〇年十月か

ら堺刑務所に収監された。

### この運動は広範な統一戦線で

東京・永井潔さん(91)



一九四〇年七月初め、党再建準備運動の末端に連なつたとして、治安維持法

違反で検挙。世田谷署、四谷署、警視庁などをタライ回しで取り調べ。特高が用意した美術家のブラックリストを見せられて驚いた。コミンテルンの手先と目される美術家の名前がびつしりと並んでいた。旧プロレタリア美術家連盟の人々よりもシュール・リアリズム系の画家や評論家の名前が多かつた。ソ連の社会主義リアリズムと対立しているのだから、手先などであるはずはない。

この頃は、共産党的を絞つた弾圧の時代とはやや印象が違つていた。治安維持法犠牲者の幅は極めて広い。

この運動は、人間性と人権を蹂躪した国家犯罪に対抗する広範な統一戦線運動であるべきだ。

### 同盟創立四〇周年、3・15弾圧八〇周年行事の成功へ 四月中央常任理事会を開く

同盟中央は、四月十二日常任理事会を開き、映画「靖国」上映に対し自民党議員や靖国派の政治的圧力に対し、強く抗議する声明を決議しました。

また、昨年の参議院選挙後、国民の要求と運動が日本の政治を動かすはじめてのこと。全国的な9条の会の運動の広がりによつて「9条を守れ」の声が改憲賛成を大きく上回っていること。さらに、映画「母べえ」の上映や「多喜二ブーム」の中

### 生徒と紙芝居作つたら逮捕

千葉・山下懋さん(87)



旭川師範学校を卒業(一九四〇年三月)して四月に日高の元

神戸小学校に赴任。生活綴方連盟の先生と交流があり、紙芝居をほとんど作つて送つてくれと紙と絵具をもらった。これを教育集会で

で、治安維持法と同盟の運動にたいする関心と理解が広がっていることなどを確認しました。その上に立つて今年は、3・15弾圧80周年、同盟創立40周年という記念すべき節目の年であり、五月十三日の国会請願と40周年記念行事、その一環である「創立四〇周年記念募金運動」の成功のために、三役、常任理事が先頭に立つことを確認し、全国の会員、各同盟組織によびかけました。

も実演、子どもたちの中へはいり、紙芝居を自分達でも作ろう、というところまですすんでいました。

四一年九月二十日朝、逮捕。当日夜は「紙芝居と音楽の夕べ」でした。私は馬車に乗せられ、丁度登校時間だったので生徒たちが帽子をとつて「おはようございます」とあいさつしたのを思い出します。四三年十一月四日公判で、懲役二年執行猶予四年の判決をつけた。

# 創立四〇周年記念「特別募金」の訴え

同盟会員の皆さん

同盟は今年三月十五日、創立四〇周年を迎えました。四〇年前、百人  
で発足した同盟は、今は一万余名名の会員に継承され、「ふたたび戦争  
と暗黒政治を許さない」運動を続けています。毎年国会参議院行動を行い、  
提出した署名は延べ七百五十万筆に達し、また「国にたいして謝罪・賠  
償を求める意見書」を採択した地方議会は三五〇余にのぼっています。

同盟創立四〇周年という同盟運動の新たな発展をめざす様々な記念事  
業をすすめています。去る四月十三日には、全国各地から犠牲者十名の  
方々をお招きして東京で「語り合うつどい」を開催、犠牲者の話に「暗  
闇に輝く光を見る思い」「今の平和の重みが胸に響いた」など参加者か  
ら感嘆の声が寄せられました。

また、これまで「不屈」紙に紹介してきた「抵抗の群像」をまとめた  
『抵抗の群像』第一集を発行。各地で今、大きな話題ととともに普  
及がすすんでいます。六月には、「創立四〇周年記念講演とレセプション」  
を東京で開催します。

同盟会員の皆さん

3・15弾圧80周年・同盟の創立40周年を意気高く迎えて  
います。全国の会員の皆さんとともに、その一環として記念行事成功  
と運動発展の創立四〇周年記念「特別募金」を訴えるものです。記念品  
としてサイン入りボールペンを送ります。郵便振替で振り込みされるか、  
同盟都道府県組織の方にお渡しください。

郵便振替 〇〇一一〇 六 九七七九三

二〇〇八年五月

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟中央本部

## 紙芝居研究会に入ったら逮捕

北海道・松本五郎さん(87)



旭川師範に入  
学。美術部に入っ  
て自由に語り、  
学ぶことの喜び

を知りました。ルネッサンス研究  
会、紙芝居研究会、レコードコン  
サートなどに参加。これが、国策  
批判で、国体変革・治安維持法で  
検挙されるとは夢にも思わなかつ  
た。四一年九月二十日早朝、寄宿  
舎で拘引。旭川署に留置。零下三  
〇度、手足の凍傷に苦しみながら  
耐えた。一年余の取り調べでは警  
察の作文調書をなぞるのみ。翌年  
十二月釈放。公判では懲役一年六カ  
月執行猶予三年の判決。親兄弟が  
受けた非国民のそしりが辛かった。

## 特高に主義者に仕立てられた

北海道・菱谷良一さん(86)



旭川師範・美  
術部に入部。四  
一年九月二十日  
寄宿舎で特高に

より拘引。その時は、美術部長熊

田満佐吾先生の参考人出頭と考え  
ていたが、特高の尋問に接し、い  
かに甘いかを思い知った。共産主  
義を信じ、実践したという子供を  
恫喝と滑稽な言辞で調書をでっち  
あげられ捺印させられてしまった。

共産主義なるものもロクに知らず、  
また何らの不法運動にもかかわつ  
た訳でもないのに、突然逮捕され、  
遮二無二「れつきとした主義者」  
に仕立て上げられたのである。四  
二年十二月仮釈放。結果は、懲役  
一年半、執行猶予三年の判決。

## 「大阪商大事件」とは

大阪・林 直道さん(85)



大阪商大予科  
に一九三二年入  
学。先輩たちが  
次々戦場へ駆り

立てられ、戦死の知らせが報じら  
れた。なぜ戦争をしなければなら  
ないのか？これが最大の謎だつ  
た。三七八年に特高は全国の書  
店から社会科学書を押収、入手に  
苦労した。日本資本主義の勉強に  
よって、この戦争は不正義の侵略  
戦争であることが少しずつ理解で

きた。四二年上林貞治郎助教と学生らによつて帝國主義戦争反対と社会科学研究のケルン組織がつくられた。大学の戦争礼賛講義の出席義務付けには、反対運動が激しく盛り上がり、実質上のストライキにはいった。満鉄調査部員の検挙から始まった検挙の嵐は、大阪商大の教員四人、卒業生八人、学生三三人など計四六人が逮捕

大阪拘置所は商大アパートと化した。獄死、発狂各三人、釈放後死亡二人など、多くの犠牲者が出た。これが「大阪商大事件」である。

### 天皇一家を批判し不敬罪逮捕

神奈川・水谷女子さん(94)



富山女子師範二年生の時、後の憲法学者田畑忍夫人ハルさんと出会い、社会主義の影響を受ける。『共産主義のABC』読書会に参加して友人とともに逮捕、退学処分。姉を頼つて上京。関東消費組合加盟の第一合同消費組合で働く。四四年三月、夫の水谷、

次いで妹、さらに本人が逮捕、理

由は、姉が懇意にしていた近所の未亡人との対話。戦争の大本・天皇を呪い、天皇一家を殺しても飽き足らない、と言つたことが不敬罪で栃木刑務所に収監された。

### マルクス主義者だろつと逮捕

東京・市吉澄枝さん(84)



終戦の年の一月、マクネチュードフの三河大地震の余震もおさ

まらない二十七日、岡崎で航空機工場の寮母の仕事、千葉県警の特高二人に逮捕。取り調べは「お前はマルクス主義者だろつ。誰と付き合つていたか正直に言え」。

留置場では、板の間に一日中正座。夜は汚い蚤と虱の巢窟・せんべい布団。朝起きると、服の縫い目にびっしりと血を吸つた虱が。七月六日、B29の焼夷弾が警察署を襲撃。留置人は仮釈放されたが、私は一人防空壕へ。やがてそこへも焼夷弾。若い巡査の機転で脱出し、九死に一生。八月二十四日突然「家に帰つてよい」と。何の謝罪もなしに放免された。

冥土までもつすぐですよのお触れなる「後期高齢者」よくぞ命名(秦野市・浦上昭一)

懸命に生きたる罪か人間の枠外されし後期高齢者(熊本県・三池淑恵)

「後期高齢者」言わしておけば言うものぞ憤然として春の雪掻く(伊那市・小林勝幸)

四月十五日後期高齢者千三百万人のうち八百万人から新

### 焦点の時

保険料が天引きされまし  
たが、その前後の朝日新聞の「朝日歌壇」に後期高齢者の怒りと怨みの歌が並びました。

選者の一人佐佐木幸綱は四月二十一日付の選評で「先週と今週、『後期高齢者』を話題にした作が驚くほどたくさんあつた。」と語っています。

この制度は毎年二千億円を超える社会保障関係費とりわけ老人医療費の削減が目的で、二〇一五年までにいまより三兆円、二〇二五年には八兆円財政支出を減らす自公政権の政策によるもの。

家族扶養制度から切り離し、七

## 後期高齢者の怒り

五才以上、千三百万人全員から保険料を取り立てる反面、医療給付は制限する、文字どおり「やらず、ぶつたり」の冷酷非情な制度。

政府・厚生省は、高齢者は治療が長引き病気も併発しがち、認知症が多い、遠くないうち死ぬなどと言つて、いわば枯木に水をやってムダだと切り捨て、露骨な老人虐待政策です。

この「平成のうば捨て山」といわれる老人虐待政策はすでに二〇〇六年六月の小泉政権下での包括的な「医療制度抜本改革法案」の強行採決に端を発しています。

保険料は二年ごと算定される仕組みで団塊の世代の高齢化時代には、保険料の高騰が懸念されます。

いよいよ火の粉が身に降りかかつてきて、いま後期高齢者はだれも怒り心頭です。憶えば後期高齢者は、とかく律儀で投票率の高い保守支持層でした。自公政権はそれまで目の敵にするとは。相つぐ悪政の国民との矛盾がいまあらわに展開されています。

(二元)

## 抵抗の群像



## 「聳ゆるマスト」と

## 反戦兵士宮内謙吉

林 洋武

広島県呉軍港における日本共産党の海軍向け機関紙「聳ゆるマスト」の活動は、軍隊の中で共産党の活動という点でも、中国侵略戦争への反対闘争という点でも、戦前の党史上で画期をなすたたかいです。ちょうど満州事変（一九三一年＝昭和六年）さらに上海事変（一九三二年一月）という中国侵略戦争が本格化するなかでの軍艦内での反戦平和のたたかいであっただけに、当時の支配者たちに大きな衝撃を与えました。たたかいたの全体は、山岸一章著『聳ゆるマスト』（一九八一年刊）に詳しく記録されています。

「聳ゆるマスト」は、一九三一年一月に錦織彦七（島根県出身＝一九四二年獄死）等によって発行され、「赤旗」とともに軍艦内に

持ち込まれ、六号まで発行されました。阪口や木村莊重（戦後共産党員として島根県吉部村長＝現津和野町、その後離党）ら三名は、海軍の中に「社会科学研究会」をつくったことを理由に軍を除隊になつていましたが、これらの軍隊外の除隊組と現役の水兵たちの手によって百部近くの発行部数を持つ反戦反軍の共産党新聞が当時の軍艦内に配布されました。上海事変で呉港からも軍艦が出兵しましたが、おびただしい戦死者と負傷者を出して帰ってきます。こうした犠牲者が出るなか、兵士たちの不満を組織しながら、反戦と平和のたたかいをすすめました。一九三三年十一月に特高によって発見され、二十数名が逮捕されて、除隊組は治安維持法によって四名が、

現役組は軍法会議によって五名が重罪にされます。この中には山口という現役水兵は逮捕された以後行方不明になっています。逮捕された者は、激しい拷問にもかかわらず口が堅く、「赤旗」一部と「聳ゆるマスト」一部が発見されただけで圧倒的部分を弾圧から守り抜いた点でも注目されています。

宮内謙吉は、この中で唯一人の山口県出身の現役水兵でした。彼は一九〇一年十月二十八日に、山口県最北の阿武郡田万崎村（現萩市田万川町江崎）で生まれ、萩中学校を卒業して海軍に入ります。軍務の傍ら文学を愛し、満州事変が始まる一九三一年（昭和六）年頃より、木村莊重の影響の下でプロレタリア文学に目覚め、「聳ゆるマスト」の最初からの読者になり、さらに組織者になっていきます。

事件が起きたときは、三等看護兵曹で海軍十年の経験を持つ最年長者でした。軍法会議で懲役三年の実刑を受け、非転向でたたかい、山口刑務所に移送され、一九三四年九月に獄死しています。

懲役三年の懲役刑を受ける木村

莊重とは彼が病院に入院するのを機に知り合い、たたかいをともにします。彼の義妹になる右田美子は山口県厚狭（現山陽小野田市）出身で派遣看護婦として「聳ゆるマスト」の活動や救援活動に奮闘しますが、宮内と好意を持ち合いますが、その彼女も救援活動の過労のなかで宮内に先立つ八カ月前に二一歳の若さで命を落とします。宮内謙吉は国賊として扱われ、郷里の江崎では一家が移住して墓石も明らかではありませんでした。山岸一章の『聳ゆるマスト』が発行された真後に、共産党の努力で、兄嫁にあたる北島タミヨさんの宅に写真が残されていることがわかり、それがこの写真です。

現役の水兵で懲役六年という最も重罪を受けた岡山県出身の小倉正弘（当時共産党員、その後改姓して石飛正弘）は戦後日本共産党に再入党して山口県光市で活動していました。同盟の「不屈」山口県版に当時の思い出を語りましたが、この稿も彼の思い出から多くをとりました。彼もすでに故人になりました。（山口県本部会長）

同盟歌壇

確田のぼる選

千葉県 高沢義人

春くれば築地を巡り拷問死の多喜二に誓う慣わし老ゆ

評 小林多喜二が殺されたのは一九三三年三月〇日 築地署においてであった。結句に作者の来し方が凝縮している。

東京都 若林義文

戦争に片肺なくし苦しみつよくぞ生き来し米寿近くも

評 戦争の傷を負いながら、戦後長く生きて来たことの回想である、「つよくぞ生き来し」に、万感がこもっている。

新潟県 加茂川ハル子

夫の手術無事に終りて夕食に女三人寿司五人前

評 年を重ねてからの手術ゆえの不安が解消された喜び。

静岡県 江川佐一

太々と九条まもる文字ありきアンデパンタン展で友の名を見る

評 展覧会で九条にかかわる文字表現をしている友への親しみ

東京都 鈴木すみ江

花筏ひとたび揺れて堀の面の高きビル影小さく砕く

評 「花筏」はきれいな言葉である。水の面をよく見ている。

和歌山県 中平喜祥

「後期高齢者」われにも春の気配して「日本共産党宣言」を読む

評 「春の気配して」とは若々しい気持ちであらわしている。

福井県 元山章一郎

桜咲く校舎に並ぶ入学児希望にみちて瞳キラキラ

評 桜のもとで、希望にあふれた小学校一年生の喜びが浮かぶ。

岐阜県 和田昌三

遠くから仲間の電話あり党候補者の市議選当選の喜びの声

評 市議選の支援をしていた友のわがことのような喜びの声。

東京都 山崎元

目を伏せるシルバースーツの若者も「派遣」疲れか夜の地下鉄  
評 派遣労働の苛酷さを作者は夜の地下鉄の中でとらえている。  
注・毎月十五日が投稿締切日です。

書棚

治安維持法国賠同盟刊

『抵抗の群像』を読んで

日本国民救援会会長 山田善一郎

淡々と書かれています。一言ひとことに吸い込まれる思いで読みました。  
「赤旗」三部を三人の農民に配つただけで三年間も刑務所に入られた。この一つをみても、当時の弾圧の凄まじさが想像されます。  
日本国民救援会の前身・解放運動犠牲者救援会は、治安維持法による三・一五大弾圧が加えられたその年、弾圧犠牲者の救援運動を進めながら結成総会を開いたのでした。創始者の一人・太田慶太郎さんが、「明日は逮捕される身であることを承知しながら、己を空しうして犠牲者と家族のために献身した」と語られました。  
この本に書かれている多くの先達のたたかいは、弾圧犠牲者救援を一体にして取り組んだこと、そして救援会と治安維持法犠牲者国

賠要求同盟の関係は、切り離し難い関係にあることが、より深く理解されます。  
いま、侵略戦争を美化しながら、再び戦争をする国への政治の加速に伴い、警察は、国民監視の網を強めています。  
とくに情報活動つまり民主勢力へのスパイ活動を最重視し、民主勢力の言論活動と組織破壊を狙った弾圧事件が相次いでいます。  
同時に一般市民に対する権利侵害事件も激増しています。  
冤罪事件の容疑で逮捕した青年を床にねじ伏せて、頭を尻で押さえつけて、「特高警察を知っているか」と告白を強要した事件もありました。こつした時であるだけに、命を賭してたかった先達の貴重な体験記であるこの本が、私たちのたたかひの生きた手引きとして活用されることを願って、多くの人びとに普及したいと考えています。



治安維持法 弾圧犠牲者救援会 山田善一郎 著 『抵抗の群像』

(定価一五〇〇円)

顕彰碑  
探訪

尹奉吉(ユンボンギル)義士

暗葬の跡碑

私たちは女性部(なのはな会)の皆さんと昨年十一月に近くにある奥村秀松墓(治安維持法犠牲者大阪刑務所で獄死した)を参詣しました。その近く、五〇メートル程坂を上がったところに尹奉吉暗葬地があります。

この日も韓国の旅行者がたくさん来ていました。

尹奉吉義士暗葬地跡の碑に次のように刻まれています。

碑文大要

ここは、韓国独立運動の英雄・尹奉吉義士(一九〇八〜三三)が暗葬されていた地です。尹奉吉は



上海事変直後の一九三二年四月二

九日、上海虹口公園で行われた旧

日本軍戦勝祝賀式典の壇上に爆弾

を投げ日本軍司令官らを殺傷しま

した。

彼はその場で逮捕され軍法会議

で死刑判決後、上海派遣軍の主力

であった第九師団が置かれていた

金沢へ連行され、一九三三年十二

月一九日、内川村三小牛山(現・

金沢市野田山墓地)で銃殺されま

した。

しかしその遺体は、陸軍刑法通

りに処置されることなく、道路で

あったこの地に密かに埋められ

(暗葬)、目印も無いまま十二年

間、何も知らない多くの人々によつ

て踏みつけられ続けられました。

敗戦後一九四六年三月、延べ二

〇〇人余の在日朝鮮人によつて、

遺体を探し出され、故郷に帰るこ

とができました。現在韓国では、

尹奉吉義士とよばれ国民的英雄と

して知らない人はいないほどです。

(石川県本部会長 北口吉治)

― 寄贈された図書 ―  
ガイドブック「小林多喜二の東京」  
学習の友社 一〇〇〇円

【事務所移転のお知らせ】

同盟青森県本部

〒〇三〇一六八〇一

青森市長島二丁目三十五

(民青会館内)

電話 〇一七(七二二)九〇一八

FAX 〇一七(七二二)九〇一九

同盟神奈川県本部

〒二二一〇八三三

横浜市神奈川区二ツ谷二一九

T・F 〇四五(三三四)一七六六

事務局 日誌

4月3日 三役会議

4月4日 国民救済会創立80年記念講演とレセプション

4月14日 9条世界会議実行委

4月12日 中央常任理事会・映画

「靖国」上映妨害に抗議

4月13日 同盟創立記念行事「犠

牲者と語りあつた」とい「開催

4月21日 葛飾ヒラ弾圧「守る会」

第四回総会

4月23日 国際人権活動代表者会議

4月27日 故中西三洋会長納骨式

『治安維持法と現代』

特集 3.15大弾圧80周年  
同盟創立40周年

2008年春季号  
好評発売中



【主な内容】「3.15事件の連鎖―小林多喜二に触れて」荻野富士夫、「わが郷土の3.15」東京=山崎元、大阪=柳河瀬精、京都=岡本康、愛知=田中邦雄、兵庫=佐野陽三、福岡=堺広毅。「共産党事件の報告」第55回帝国議会衆院本会議秘密報告議事録。「3.15共産党弾圧に対する質疑」衆院予算委員会=山本宣治、「青春時代・治安維持法で弾圧されてもなお、平和と社会進歩のために闘い、いまなお闘いつづける人々」松崎濱子・大川芳夫、金森ひろたか、立川義人の想い。「横浜事件再審・最高裁判決と同盟の任務」増本一彦、「山代吉宗 その道」呑川泰司、「東京高裁が不当判決」荒川庸生、「司法は『権力の笛』を吹くな」松井繁明など、学習材料が満載。

A5版、定価1000円、送料210円、各都道府県本部でお求めを。

治安維持法と現代を結ぶ総合雑誌

企画・編集 治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟